600字物語018

たゆたう

エリー　ELYE

目次

600 字物語 **018** たゆたう 1

600字物語 018 たゆたう

僕は町の外に出たことがない。
アパートと小学校と中学校と工場しか知らない。
テレビも見ないし、スマホも持ってない。
本も読まない。
おしゃべりもしない。
得しようと焦ることもない。
損したと憤ることもない。
ご飯と野菜の味噌汁と肉を焼いたらそれでいい。
ある日、職場に新しい人が入ってきた。
推しの政治家がいて、僕にもすすめてきた。
彼は政治家を選ぶことは国民の義務であり、参加しないのはただ乗りのズルだと力説した。
僕は水墨画のように曖昧でぼんやりした輪郭のない世界を味わいたい。
意味や意義を考えて区別をつけて選ぶなど、もっとも苦手な行為。
たとえ選ばなくて政治が悪い方向にかわって知らない間に地獄になっても、僕はぼんやりしているだろう。
自分も他人もなく、すべてが流れるようにたゆたう。
米が食べられなくなったら、食べていたころの幸せを思い出して楽しくなる。
幸せは小さい方がいい。
あることをあるがままに受け入れて、ただただ生きていく。
死のその瞬間まで幸福感に包まれて、ぼんやり過ごす。それが僕の生き方。

600字物語018たゆたう

著　　エリー　ELYE

制　作　Puboo
発行所　デザインエッグ株式会社